

2025年3月で東日本大震災から14年目を迎えます。津波による甚大な被害を出したこの大災害で被災された方達の経験から、私たちは多くの事を学び教訓として生かしていくことが必要です。今回の防災ニュースでは、津波に対する対策と当時被災をされた職員の体験談を掲載します。



津波は海からも川からも押し寄せます



①巨大な津波は堤防を乗り越えて街を襲うリスクがあります。なるべく遠く、なるべく高く、余震への警戒もつづけながら逃げましょう。



②津波は川を遡って、水量が多いと川から街へと流れ込みます。地震のあとに川の水が引いた場合前兆である可能性が高いため直ちに避難！



一緒に逃げましょう

周りの人にも声を掛け避難を促そう！



皆さん、山の方へにげてください！

ココに注意

強い地震や長時間の揺れを感じたら即避難

津波警報を待たず、海岸や川沿いから高台や避難ビルへ移動する！

避難場所と経路の事前確認

ハザードマップで避難場所と経路を確認しておくことが重要！

歩ける人は徒歩で避難

車は渋滞の原因となるため、できるだけ徒歩で安全な場所へ向かう！

津波警報が解除されるまで戻らない

津波は繰り返し襲来するため、安全が確認されるまで避難場所に留まる！

落下物や崩壊に注意

避難中は看板や建物の崩壊に注意し、頭を守りながら行動する！

近隣住民と協力

助け合いながら安全に避難できるようにする。
クライアントの個別避難計画(災害対応パーソナルBOOK)の作成をすすめ、クライアントも職員も周りの方もみんなて助かりましょう！



3.11で被災された デイホーム所属 織田由加さんの 体験談と伝えたいメッセージ

東日本大震災では、私も子どもも無事でしたが、石巻の海沿いに住む家族とは連絡が取れなくなりました。

母と祖母は行方不明者になっていました。二人は津波にのまれ、母は震災から3か月後、がれきの下から発見されました。祖母はグループホームに入居しており、震災時は、グループホームの車で逃げたのですが、車と祖母は今も見つからないままです。

震災後は、心のバランスを保つのが大変でした。ただ、時間の流れだけが、私を正常にさせました。

現在はデイサービスで勤務していますが、BCPは作成しているものの、災害対策は難しいと感じています。想定されることを考え、今取り組める対策を一つでも行っていきたいと思います。

震災が起きれば、目的の場所への移動も難しくなります。そのことだけは皆さん、頭に入れておくとうよいと思います。

織田由加さんご出演回のこもちゃんTV



第148回
こもちゃんTV



【土屋防災委員会】の



をフォロー
お願いします！

エックス



アカウント登録
をして、防災に
関する様々な
情報 GET !!

新・安否確認システム - Vjica(ヴジカ) の運用スタート

職員やクライアントの安否を迅速かつ正確に確認することは、事業継続する為に欠かせない要素です！この度、株式会社土屋では独自のシステム開発を行い、所属する全社員を対象とした安否確認システムVjica(ヴジカ)を2025年2月より運用開始します。

災害発生後の優先順位

1. 「【土屋防災委員会】Vjica 安否確認メール」メール内にある「こちらのフォームより」のリンクからGoogleフォームを開き、自分や周囲の人の安否を入力し返信してください。
2. 「Vjica(ヴジカ)」からの返信が難しい場合は、Chatworkや電話、災害伝言ダイヤル・Web伝言板171などを使用し、必ず管理者に安否を伝えてください。